

特集 広域雇用創出クラスター担い手育成事業

地域の雇用創出に向けて



登別市と白老町は、『温泉』や『ポロトコタン』などを中心とした、北海道を代表する観光地の一つです。

両市町は、厳しい経済・雇用情勢を緩和するために、関連する産業の裾野が広く、経済波及効果や雇用創出効果が大きい観光産業を、地域の他産業と結び付ける仕組みづくりを広域で積極的に推進しています。

今月号では、この取り組みの一つである『広域雇用創出クラスター担い手育成事業』についてお知らせします。



登別市、白老町の課題

登別市と白老町は、年間約530万人の観光客が訪れる北海道を代表する観光地の一つです。

一方、それぞれのまちに隣接する室蘭・苫小牧市は、製鉄や製紙などを中心とした北海道を代表する工業都市です。これに挟まれる形で位置する登別・白老地域は、工業の集積が低く、地域経済を引っ張る企業も少ないことから、経済活性化や雇用の場の確保が大きな課題となっています。

登別市の現状

登別市は、基幹産業である観光を軸とした産業を集積し、市内全域を一つの観光経済圏として機能させる『産業クラスター形成計画』を策定し、新産業の創出と地元企業の育成を図りながら、雇用の創出を目指しています。

しかし、実態としては、産業界や企業間の連携が希薄であること、また、観光を軸とした新事業展開を担う人材、とりわけグリーンツーリズム（緑豊かな農山漁村地域において、その自然や文化、人々との交流などを楽しむ滞在型の余暇活動）などの進展や国際観光都市化に伴う観光分野、今後拡大が見込まれる健康保養分野などにおいて、新たなビジネスチャンスに対応できる人材が不足し

ているといった課題があり、新事業展開に中心的な役割を果たす意欲ある人材の育成が急務となっています。

白老町の現状

白老町は、観光振興だけでなく、観光と地場産品の連携による販路拡大を目指していますが、既存資源を新たな雇用に結びつけるための人材や地場産品の販路拡大、商品開発を担う中核的人材が不足しており、その確保が課題となっています。

さらには、白老町を代表する『ポロトコタン・アイヌ民族博物館』は、北海道のカルチャーツーリズム（エコツーリズムに文化的な要素を取り込んだもの）を代表する観光資源であり、アイヌ文化はエコツーリズム（自然環境を破壊することなく、その土地特有の自然・生活文化などの資源を持続させていく旅行の概念）や体験観光といった成長分野に、北海道ならではの価値を付加する貴重な財産ですが、文化を継承する人材や事業化を目指す人材とノウハウが不足しており、その確保が急務となっています。

また、地域の厳しい雇用情勢を緩和する方法として、無料職業紹介事業に取り組んでいます。特に労働力の需要と供給が合致しないことから、この解消を図るため、情報提供機能のさらなる充実も課題となっています。